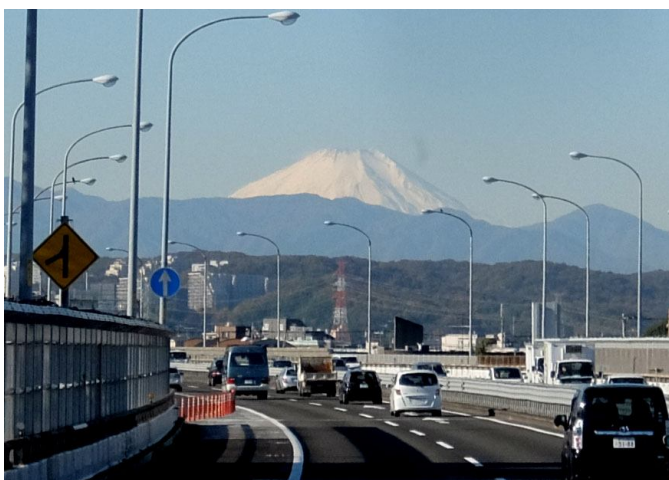


「奥多摩自然観察会(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

11月25日(土)に奥多摩に出かけてきた。私は水彩スケッチの講師として参加した。主として、巨木の観察が目的だが、秋の奥多摩の自然を堪能できそうで、非常に楽しみにしていた。



集合は東京駅前。総勢約30名が観光バスに乗って、中央高速を奥多摩に向かった。この日は快晴で、調布付近からは真っ白な富士山もよく望めた。



府中を過ぎると、奥多摩の山々もよく見えた。写真は大岳山(右)と三頭山である。ほかにも、雲取、飛龍、甲武信、丹沢山塊、小金沢連嶺などがよく見え、久しぶりに行く奥多摩に、期待が高まった。

メンバーはシニア組(自称「自然観察のベテラン」)が5~6名、若手(主に専門学校の学生さん)が20人以上と、にぎやかだ。行きの車中では、シニア組が、自然に関する思いを語る時間で、私には最初にマイクが回ってきたので、オーロラや浅間山の観測の話、ケヤキの種子拡散の話などをさせてもらった。



途中の休憩をはさんで、ほどなく奥多摩駅前に到着。駅舎といわれなければ、どう見ても山の中のヒュッテである。こんな場所に鉄道駅があるのは、セメントの原料である石灰岩が産出し、かつて貨物輸送が盛んだったからだ。



駅のすぐそばに「奥多摩ビジターセンター」がある。街の中に位置する、珍しいセンターだ。ここの集会室をお借りして、まずは水彩画のレクチャーをする。



センターの脇には紅葉の山が見える。本仁田山(ほにたやま)である。標高こそ1225mと奥多摩の前衛的な山だが、麓からイキナリ急峻な登山道で、私は過去に非常に苦労して登った記憶がある。